令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　大切な災害復旧費　」

山形県　白鷹町立蚕桑小学校　４年　青木（あおき）　七海（ななみ）

６月 18 日に、わたしたち４年生は、県庁を見学しました。見学後に、国語の学習で、もっと調べたいことをまとめることになりました。わたしは、「県に入るお金とつかいみち」を調べることにしました。

県庁でいただいた資料をみると、令和元年度の予算は、6,130 億 9,800 万円です。つかいみちは、県民１人あたりで 56 万 2,600 円です。内わけは、教育費が一番多くて、10 万 4,700 円でした。

わたしは、その中で災害復旧費につかわれているお金が少ないことに疑問をもちました。12 項目のまんなかぐらいにくると思ったのに、多い方から 10 番目で、県民１人あたり 9,000 円でした。なぜ少なすぎると思ったかというと、テレビで、山の土砂くずれや大雨で家の一階まで水がつかる様子を見ると、もとにもどすのは、たいへんなことだと思ったからです。

６月 18 日、ちょうどわたしたちが県庁見学をした日の夜、山形沖地震がありました。わたしはねていて、ゆれに気づかなかったけれど、つるおか市は、震度６弱だったそうです。県庁のホームページで調べると、この地震の被害への対応のために、５億 7,500 万円の予算がついたことがわかりました。わたしは、災害復旧には、やっぱりすごいお金がかかるんだな、と思いました。

７月には、学校のげん関前のろうかに、災害の写真がはってありました。それは、６年前の７月に、蚕桑で起こった大雨の災害の写真です。桜美館前の道路には、木や土砂が流れてきていて、道をふさいでいました。わたしの学校では、災害はいつ起こるか分からないから、毎年７月、写真をはって、忘れないようにしていると、先生から聞きました。

わたしは、６年前は保育園でおぼえていないので、お母さんとおばあちゃんに、このときのことを聞いてみました。わたしの家の辺りは、何も被害がなかったそうです。そこで、桜美館の地区の多田区長さんにたずねました。多田区長さんは、学校にたくさん写真をもってきてくださいました。

流れてきたすぎの丸太は約 100 本。土砂は、10 トントラック 100 台分もあったそうです。30 分ぐらいで、あっという間に速いスピードで下りてきたそうです。すぎの丸太が二本、お店のシャッターをやぶった写真もありました。その家の人は小指をけがしたそうです。シャッターのまんなかにいたら、飛ばされてしまったかもしれません。

多田区長さんは、「きれいにかたづけるのに、地区の人や消防団の人たちで三日もかかりました。おにぎりを作るたきだしの人もいました。ボランティアの人もいっぱい来て、東京の人も手伝ってくれました。」と、おっしゃいました。それから、砂防ダムにたまった土砂を取りのぞいたそうです。それだけではたりないので、大きな砂防ダムを新しくつくり、２億数千万円かかったそうです。わたしは、この多い金額にびっくりしました。６年生が、去年の１２月、工事の見学に行ったので、その様子を聞きました。新しいダムは、２階の校舎よりも高いぐらいで、工事の人は、足場をふみはずすと、命がなくなりそうなくらい高いところで作業をしていたそうです。山の中なので、ここからは見えないけれど、みんなの安全をまもるために、がんばってくださったんだな、と思いました。

災害復旧費は、１人分にすると少ないと思ったけれど、実際はたくさんのお金がつかわれていることがわかりました。県庁からいただいた資料には、「このお金は、県民のみなさんからおさめていただいた税金などです」と書かれていました。わたしは、災害復旧費も税金も大切だと思いました。これからも関心をもっていきたいです。